

## 経営における技術の関わりを学部で教える

理事長 西河洋一

4月から、学校や会社では新年度がスタートしました。当財団では、2つの大学で寄付講座を行うべく、準備を進めてきました。そのうちの一つである千葉の敬愛大学（三幣利夫学長）では、『経営シミュレーション（西河技術経営学入門）』と題し、経済学部経営学科の学部生に「技術経営」を講義することが決まり、4月10日から講義が始まりました。技術が経営にどうかかわっているかを理解してもらうことを目的に企画提案をし、賛同していただきました。

当財団の定款の目的には、事業をするための技術経営人財の育成・活用を掲げており、西河技術経営塾の講座を通して整理を進めている「西河技術経営学」を分かりやすく学生に説明することは、重要な取り組みだと考えています。塾の講師陣が担当し、経営経験などを研究した実学に基づく経営の話を楽しく、分かり易く伝えることに取り組みます。

講座は、座学60分、グループディスカッション30分で構成されています。

大学の学部で「経営学」を教えているのに、「技術経営」を教えることができないかの疑問があつての挑戦です。財団が5年間にわたり取り組んできた「西河技術経営塾」で得られた実績からの知見を、経済学部で経営学を学ぶ生徒に実践的な経営話題を平易な用語を使って説明することから始めます。モノづくりやコトづくりの場面での技術の存在を明らかにし、経営との関わり合いについて解説していきます。

寄付講座の背景に「技術を抜きにした経営などありえない」との思いがあるからです。変革の時代にあつて、企業の強みを作り上げるイノベティブな経営をする上では、早い段階から技術の存在を理解することは大切なことだと思っています。講義では、ビジネスモデル、技術経営戦略、中長期計画、エンジニアリング・ブランド、サービスとホスピタリティ、マネジメントとリーダーシップ、海外マーケットの市場創生などをテーマにあげています。将来の実践力育成につながる、「技術経営」に関する基礎講座を志向します。